

ドクトル・ジバゴ

デビッド・リーン監督が謳いあげる華麗なる大ロマン

ロシア革命という時代の大きな流れが個人の運命を翻弄する

巨大なロシアの雪の大地に

ドラマチックに描いた

ジバゴとララの燃え上る愛と苦悩を

美しくも繊細な、

ララのテーマで贈る

1965年アカデミー

賞6部門受賞。

監督●デビッド・リーン

製作●カルロ・ポンティ

原作●ボリス・パステルナーク

撮影●フレッド・A・ヤング

音楽●モリス・シヤール

オマー・シヤリフ／ジュリー・クリステイ

ジェラルディン・チャップリン／ロッド・スタイガー／アレック・ギネス

トム・コートネー／シオバン・マッテナ／ラルフ・リチャードソン／リタ・トゥシンガム



METRO-GOLDWYN-MAYER PRESENTS A CARLO PONTI PRODUCTION DAVID LEAN'S FILM OF BORIS PASTERNAK'S

DOCTOR ZHIVAGO

A Carlo Ponti Production David Lean's Film of
Boris Pasternak's DOCTOR ZHIVAGO

Starring GERALDINE CHAPLIN • JULIE CHRISTIE • TOM COURTENAY
ALEC GUINNESS • SIOBHAN McKENNA • RALPH RICHARDSON
OMAR SHARIF(as Zhivago) • ROD STEIGER • RITA TUSHINGHAM
Screenplay by ROBERT BOLT

Directed by DAVID LEAN • Music by MAURICE JARRE



10/23(金) ▶ 11/19(木)

ハート♡ハート、名画は永遠。

銀座文化2

銀座4丁目交差点和光ウラ Phone(561)0707

「ドクトル・ジバゴ」は数ある恋愛映画の頂点に立つ巨大な永遠の名作。3時間をはるかに超える長さがまたたくうちに過ぎ去る感動を呼ぶ。革命によって引き裂かれては再会し、またロウソクのように灯っては消され、時代の大きな流れに押しつぶされてゆく医師ジバゴとラーラのひたむきな愛の行方。それを巨匠デビッド・リーンはいささかも妥協を許さず、精密なモザイクを敷きつめるようにうたいあげて行く。ボリス・パステルナークの原

ドクトル・DOCTOR ZHIVAGO ジバゴ

作はノーベル文学賞を受けたガソ連当局の圧力で辞退させられ、ベレストロイカ政策によって復権したばかり。リーンはジバゴとラーラの愛に焦点をしばった。映画音楽のスタンダード・ナンバーになったモリス・ジャール作曲「ララのテーマ」は甘美でやるせなく、バラライカの調べが胸にしみこむ。オリジナル作曲、脚色、撮影、美術、衣装デザインの5部門でアカデミー賞を受け、ジュリー・クリスティーは同じ年度の主演女優賞に輝いた。

木枯らしが吹きさす大平原に埋められた母の遺体。幼いユーリー・ジバゴは裕福なグロムイコ夫妻に実の子と変わらずに育てられた。

第1次世界大戦の前のモスクワ。グロムイコ家の近くに住む婦人服店の娘ラーラ（ジュリー・クリスティー）はういういしい美少女であり、党員の青年と将来を誓いあっていた。彼女は母の愛人である弁護士のコマロフスキー（ロッド・スタイガー）に手ごめにされて犯され、思いあまって撃ち、負傷させた。それは若き医学生であり、詩人として嘱望されていたジバゴ（オマー・シャルフ）とグロムイコ家のひとり娘（ジェラルディン・チャップリン）との婚約発表の宴であった。

第1次大戦はロシアを巻きこみ、革命の嵐が全土を荒れまわった。豊かな家庭に育ったジバゴは革命が起きる時代の流れこそ否定しないが、革命のやり方に疑いを抱いていた。軍医として最前線に立ったジバゴは、従軍看護婦に志願したラーラと思いがけずに再会し

た。ラーラもすでに結婚していた。負傷兵を手当するふたりの胸の中に慕情がはぐくまれて行く。

革命後のモスクワには昔の華やかさはなくあるものは飢えと乏しさだった。グロムイコの邸宅も病院として接収されていた。注意人物とされていたジバゴ夫妻は、革命軍に加わる異母兄エフグラフ（アレック・ギネス）の手引きで老父や幼い娘を連れ、モスクワを捨てた。貨物列車がトンネルを抜けウラルへ出た。妻の領地ワルイキノの別宅では、移りゆく四季が母なる大地の息吹を伝える。

近くの町にラーラがいると知っていたジバゴはいたたまれずに駆けつけた。許されぬ愛とは知りながら、ためらいもなく愛の陶醉にひたった。しかし潔癖な詩人の心をもつジバゴは、身重の妻に罪の大きさを悟らずにはいられない。ラーラと会った帰りに革命軍に捕らえられたジバゴは、再び軍医として内戦のゲリラ戦に徴発された。流血と憎しみの毎日

に耐えかねて脱走、妻と娘の名を叫びながら雪の野原をワルイキノへ向かった。無人の別宅。ラーラに託された手紙から、妻が子供たちを連れてバリへ去ったと知った。白雪の別宅に静かな歓喜に沈むジバゴとラーラ、それも時代の波の前にはわびしく哀しいものであった。極東で要職につくコマロフスキーがラーラをあきらめきれず、ジバゴの子をはらんだまま強引に愛の巣から引き立て、奪い去った。

時は流れ、スターリン治世の暗いモスクワ。中老のジバゴは市電の中から街頭を歩くラーラの姿を見た。電車から降りたとき、心臓の発作がジバゴを襲った。ふりむきもせずに行きラーラ。あまりにもはかない愛の終末であった。

そして現代。政府の要人となった異母兄エフグラフは、ラーラにもジバゴにも似た娘（リタ・トゥッシンハム）が水力発電所で働く姿を見た。



デビッド・リーン・フィルモグラフィー

(1908年9月25日、ロンドン生まれ)

1942 In Which We Serve / 44 幸福なる種族

45 陽気な幽霊、逢ひき / 46 大いなる遺産 / 48 オリヴァ・ツイスト
49 情熱の友 / 50 マデレーン / 52 超音ジェット機 / 54 ホプソンの婿選び
55 旅情 / 57 戦場にかける橋 / 62 アラビアのロレンス
69 ドクトル・ジバゴ / 70 ライアの娘

84 インドへの道

前売鑑賞券発売中

大人券 1,200円
学生券 1,100円
ペア券 2,100円
当日大人1,500円・学生1,300円

10/23(金) ▶ 11/19(木)

上映時間

11:10 2:45 6:20

銀座4丁目交差点和光ウラ (561)0707

銀座文化2